

公開シンポジウム



日本学術会議  
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

# 理数系教育とジェンダー： 学校教育にできること

◆ インターネット上でのオンラインシンポジウム

主催

日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会

共催

日本機械学会LAJ委員会 (Ladies' Association of JSME)

2020年  
**9/15 (火)**  
13:30~16:30  
(13:00~受付)  
**参加無料**

## プログラム

総合司会

天童睦子 (宮城学院女子大学一般教育部教授)\*

開会挨拶

遠藤 薫 (学習院大学法学部教授)◆

趣旨説明

河野銀子 (山形大学学術研究院教授)\*

理数系教育の研究と実践

瀬沼花子 (玉川大学教育学部教授:数学教育学)

「学校での算数・数学とジェンダー」

稲田結美 (日本体育大学児童スポーツ教育学部教授:理科教育学)

「学校理科教育におけるジェンダーの問題と課題」

栗山恭直 (山形大学学術研究院教授:化学・化学教育)

「ヤマガタ 夢☆未来Girlsプロジェクト で行いたいこと」

他分野からのコメント

山西陽子 (九州大学工学研究院機械工学部門教授:流体医工学)\*

井谷恵子 (京都教育大学名誉教授:体育科教育学)\*

小浜正子 (日本大学文理学部教授:アジア史)\*

総括討論

閉会挨拶

宮崎恵子 (海上技術安全研究所国際連携センター副センター長)\*

◆日本学術会議会員 \*日本学術会議連携会員



← お申込フォームはこちら

**9月8日(火) 締切**

<https://forms.gle/NP9LbcdxQWrDrJuu8>

日本社会のジェンダー平等に向けた歩みは遅く、とりわけ理系分野の専攻や職業の女性割合は低い状態が続いています。その改善のため女子対象の諸事業が増えてきましたが、ほとんどが教育課程外で行われています。学校教育の外でこうした取組みが必要となっているのはなぜでしょうか。女子は学校内で十分に学べていないのでしょうか。本シンポジウムは、学校の理数系教育とジェンダーの専門家と、他分野の研究や実践に詳しい有識者を交えて議論します。ご参加をお待ちしています。

後援：男女共同参画学協会連絡会(EPMEWSE)

人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会(GEAHSS)

協力：「女子の理系進路選択拡大に向けたSTEM分野の新たな高大接続モデル」研究会(JSPS:19H01730)

宮城学院女子大学地域子ども学研究センター

# 理数系教育とジェンダー：学校教育にできること

## 理数系教育の研究と実践

**瀬沼花子** (玉川大学教育学部教授:数学教育学)

### 「学校での算数・数学とジェンダー」

筑波大学第一学群(数学専攻)、筑波大学大学院博士課程教育学研究科(数学教育学専攻)を経て、国立教育研究所(現:文部科学省国立教育政策研究所)研究員、主任研究官、数学教育研究室長、総括研究官。この間、国際的な学力調査「TIMSS(ティムズ)」及び「PISA(ピザ)」の算数・数学国内調査責任者を務める。2009年4月より玉川大学教育学部教授。数学とジェンダーに関して、約20年前(1997年度～2000年度)及び現在(2018年度～2020年度)科学研究費を得て研究を行っている。

**稲田結美** (日本体育大学児童スポーツ教育学部教授:理科教育学)

### 「学校理科教育におけるジェンダーの問題と課題」

日本女子大学理学部卒業、筑波大学大学院修士課程教育研究科修了、筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科学校教育専攻単位取得後退学、博士(教育学)(筑波大学)。公立中学校教諭、日本学術振興会特別研究員(DC2)、上越教育大学准教授を経て、2017年に日本体育大学児童スポーツ教育学部に着任。中学校の理科教育において、ジェンダー問題に直面し、以降、理科学習とジェンダーに関する研究を続けている。

**栗山恭直** (山形大学学術研究院教授:化学・化学教育)

### 「ヤマガタ 夢☆未来Girlsプロジェクトで行いたいこと」

山形に赴任して20年になります。子どもたちへの科学普及活動に様々な形で携わってきています。学内に科学普及の施設「SCITA」(Science for Tomorrow In our Area)センターを作りました。その施設を拠点に学生達あるいは社会人と一緒に県内外の団体と協力して活動を行っています。ここ数年の実績数は毎年1万人になります。現在、コロナ禍で様々なイベントが出来ない状態になっていますが、新様式での科学普及を模索しています。

## 他分野からのコメント

**山西陽子** (日本学術会議連携会員(第3部)、九州大学工学研究院機械工学部門教授:流体医工学)

専門はマイクロ流体システム、BIO-MEMS等の研究に従事。2003年にロンドン大学インペリアルカレッジ博士課程修了後、2008年より東北大学大学院工学研究科助教、2009年 JSTさきがけ専任研究員、2011年 名古屋大学大学院工学研究科准教授。2013年 芝浦工業大学機械工学科准教授を経て、2016年より九州大学大学院工学研究院 機械工学部門 教授(流体医工学研)となり現在に至る。日本機械学会、化学とマイクロナノシステム研究会、IEEE等に所属、2017年度 日本機械学会LAJ委員会 委員長。

**井谷恵子** (日本学術会議連携会員、京都教育大学名誉教授:体育科教育学)

研究分野は、体育科教育学(体育カリキュラム、カリキュラム・ポリシー)、体育・スポーツにおけるジェンダー研究。主な著書として、『スポーツ・ジェンダー学への招待』共編著(2004)、『よくわかるスポーツとジェンダー』共著(2018)など。子どもの体力向上をめぐるローカル・ポリシーに関する研究成果に対し、平成28年度日本体育学会賞を受けた。

**小浜正子** (日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授:アジア史)

研究分野は、中国ジェンダー史。鳴門教育大学学校教育学部助教授を経て現職。高大連携歴史教育研究会副会長。編著書に、『中国ジェンダー史研究入門』(共編著、京都大学学術出版会、2018年)、『歴史を読み替える—ジェンダーから見た世界史』(共編著、大槻書店、2016年)、『一人っ子政策と中国社会』(京都大学学術出版会、2020年)、『歴史教育とジェンダー』(共著、青弓社、2011年)等。